

# 子どもが主体的に表現・鑑賞活動に取り組む授業

## ～第6学年図画工作科「暮らしを編む」の実践から～

山口大学教育学部附属山口小学校 岡崎 典子

### 1 はじめに

図画工作科は、表現及び鑑賞の活動を通して学ぶ教科です。ともすれば、材料・用具があれば、子どもは進んで活動を始めると思われがちですが、子どもが、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」ということを、図画工作科の学習として想定しておく必要があります。そのようなことを想定して行う学習活動の中で、子どもが造形的な見方・考え方を働かせながら表現・鑑賞をしている姿が、主体的に表現・鑑賞活動に取り組んでいる姿だと考えます。本稿では、子どもが造形的な見方・考え方を働かせている姿が多く見られた学びを中心に述べます。

### 2 実践事例 暮らしを編む (第6学年)

#### (1) 子どもの学びの実際 ※波線は造形的な見方・考え方を働かせている子どもの姿を示す

本題材は、「編む」という伝統的な技法を使って、生活を楽しく豊かにするものをつくる学習です。鑑賞と表現とを関連させた題材構成を工夫しました。

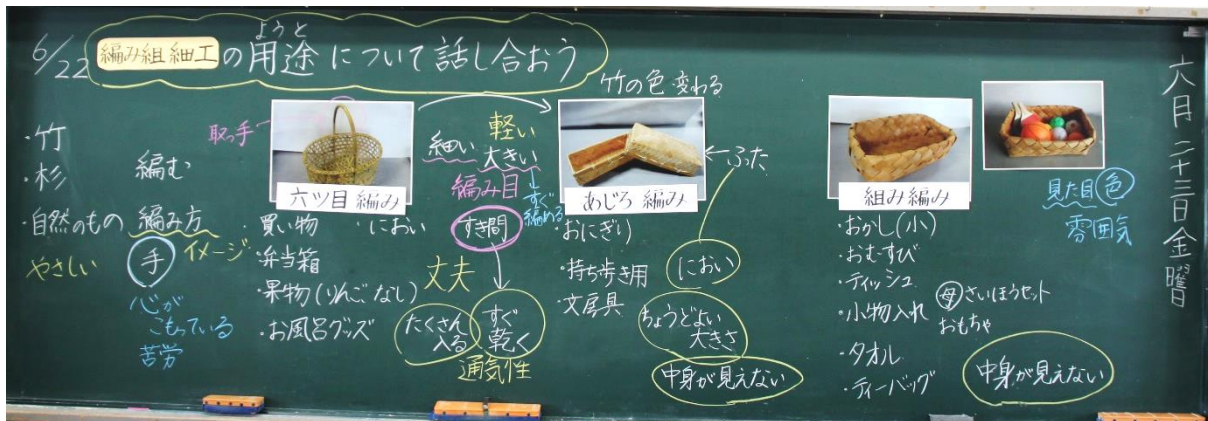
#### ① 編み組細工を鑑賞しよう [第1次第1時の学び]

第1次において、生活の中で使われている編み組細工を鑑賞する活動を仕組みました。「六つ目編み」、「網代編み」、「組み編み」の編み方の異なる3種類のカゴを用意しました。子どもたちは、3種類を見比べながら、「どれも自然の素材でできている」「編んでできているカゴ」という作品の大まかな特徴をつかんでいきました。実際に触ってみたいという思いを子どもたちがもったところで、手に取って感触や軽さを確かめながら鑑賞できるようにしました。



すると、子どもたちは、「けっこう柔らかい」「わあ、軽い」などつつぶやいて、編み組細工を手に取り、席が近くの仲間と用途について考えながら交流しました。全体で用途について話し合う際に、「文房具を入れて使うのだと思う」と発言した子どもに、「どうして文房具がよさそうと思うのかな」と問い返しました。すると、「ちょうどよい大きさで、ペンが収まる」と子どもが実際にペンを入れて見せながら答えました。また、生活経験をもとに、温泉でお風呂グッズを入れるのに使うという用途を想像した子どもに、「どうして温泉でよく使われていると思うの」と問い返しました。すると、編み目に着目し、通気性のある編み目のよさに気付く発言をしました。このように、考えの根拠を問い返すことで、子どもは、大きさ、形、編み目といった造形的な視点を意識するようになりました。

このようなやりとりをする中で、子どもが捉えた造形的な視点を板書上に整理・分類していきました。すると、振り返りの際に「みんなで鑑賞して、編み方によって用途が変わってくるのだとわかった」というふうに、造形的な視点と機能的なよさとをつなげて考えている姿が見られました。



## ② 生活の中で使えるものを編んでつくる【第2次の学び】

第1次の学びを生かして、子どもたちは、用途に合った大きさ、形、編み方を意識して、製作を始めました。与えられた材料で紙バンドを機械的に編むのではなく、「どこで誰が何に使うか」を具体的に考え、大きさ、形、色、編み方を選び、構想を練っていきました。その際、形が似ていて編み方が同じ仲間とグループになるように座席配置を工夫しました。すると、直方体のカゴのグループは、「どうすればきれいに角が整うか」といった製作上の悩みを交流したり、互いの工夫を見合ったりしている姿が見られました。



## ③ 生活の中で使った感想を交流する【第3次の学び】

完成した作品を家で実際に使ってみて、感想を交流する場を設けました。「部屋の細々したものをに入れるのにちょうどよかった」という感想をもった子どもや、「仕事に使う道具は黒い物が多いから、白と茶色のカゴに入れると明るくなった。」と言って父親が喜んでくれたという子どももいました。このように、生活を楽しく豊かにするものを自分の手で作り出すことの喜びを味わう姿が見られました。



## (2) 実践をふりかえって

第1次に鑑賞活動を仕組むことにより、子どもは思いをもち、用途に合った大きさや形、編み方、そして色を選び、製作に取り組んでいきました。また、仲間と関わり合いながら製作する中で、取っ手や飾り、蓋など、新たな工夫を加えている子どももいました。

しかしながら、第1次の鑑賞活動において、初めから用途に限定せずに、編み目の美しさや「温かみのある感じ」「和風な感じ」などのイメージを共有することを大切にするとよかったと思いました。

## 3 おわりに

今後も、子どもが造形的な見方・考え方を働かせ、主体的に表現・鑑賞活動に取り組むことができるような授業づくりを考えていきたいと思ひます。そして、生活の中の形や色などと豊かに関わることのできる子どもの育成をめざしたいと思ひます。